

取組事例 8

会員である事業場をサポートするために



公益社団法人神奈川労務安全衛生協会 小田原支部

団体概要

所在地 : 神奈川県小田原市

会員数 : 28,606名 (県西2市8町にある294事業場)

事業内容 : 「事業場における適正な労働条件の確保、労働災害の防止、健康保持増進のための活動を促進し、労働福祉の向上と産業の健全な発展に寄与する」地域経済社会の総合的な改善発達を図るための諸事業

申請年度 : 令和5年度

活用の 背景と目的

当支部では長年「健康保持増進講習会」として産業保健に関する教育講習を企画してきた。これら教育講習は法定講習と異なり、講習テーマや講師探索・派遣に苦勞するわりに参加者が少なく経費負担も大きくなっていった。そんな中、団体経由産業保健推進助成金があることを知り、運営経費を補填し、これらの産業保健講習を継続するために申請することとした。

申請するまでの流れ

時期	実施したこと
令和5年度分申請	
令和5年 7月	助成金の存在を知り、申請
令和5年 10月	ヘルスケア・トレーナーによる「転倒予防に役立つからだの使い方と作り方」講習会の実施
令和5年 12月	理学療法士による「快適睡眠の実践」講習会の実施

会員に提供するサービスの内容

令和5年度実施内容

今年度は、「エイジフレンドリー」を共通テーマとして2つの講習会を企画実施した。

- 転倒予防に役立つからだの使い方と作り方の講習会 (10月24日開催)
(リーフレット裏面の申請サービス⑦)
 - ・ 高年齢労働者の転倒災害の発生率が高いことから、その原因分析をもとに予防・対策についての講習会を企画。
 - ・ 多くの受講者を得るために、「来場参加型」リアル講習と「オンデマンド配信」オンライン講習のハイブリッド企画で実施。会員事業場の従業員延べ83名の参加を得た。

- 転倒災害の発生状況を「内的要因」と「外的要因」に分類するなど発生メカニズムを理解することができた。
- 特に、セルフチェック票に基づく体カリスクの数値化は自身の体カレベルの自覚につながり非常に有効であると実感できた。
- 転倒は過去から発生している災害でハード対策やルール作りを行ってきたが根本的に「転ばないからだ、体カづくり」に着手できていないことに気づいた。
- 体カづくりの内容は即実践できるものが多く社内に導入していく。
 - ・ ・ 等々の感想を得た。



○ 健康寿命につながる睡眠の実践講習会 (12月20日開催)

(リーフレット裏面の申請サービス⑦)

- 要望が高かった「睡眠」テーマをピックアップ。
- 睡眠のメカニズムと快眠のポイントなど、講義と体験を交えたリアル講習を実施。会員事業場の従業員33名の参加を得た。
- 良質な睡眠を得るには生活スタイルの変容が必要であること、そしてその具体的内容がとても参考になった。
 - ・ ・ 等々の感想を得た。



取組の成果

- 人生100年時代を迎え、健康寿命を維持していくことの重要性を再認識する講習会が企画できた。
- 講習内容は単なる知識教育ではなくからだを動かす講習プログラムは実践的で受講者の理解が深まった。
- 助成金を得ることで、産業保健活動を継続的に進めていく手がかりを得ることができた。

申請に当たり 苦労した点

- 年度助成金申請期間中に、申請要綱や申請用紙が順次更新されており、申請内容を変更するなど再申請に手間取った。
- Q&A含む申請手引きは記載内容が多く、直接問い合わせで確認した。

これから申請 を検討してい る団体への アドバイス

- 申請様式以外に順次提出を求められる情報があるので、提出すべき団体情報等を最初によく確認しておく。
- 助成金対象企画実施後の申請段階で、申請様式以外に実施結果報告を求められるので実施レポートの作成やアンケートの実施は必須と考えた方がよい。